

6 本時

(1)目標 身近にある物を使って、傘袋がよく飛ぶような工夫をしながら遊ぶことができる。(活動や体験についての思考・表現)

(2)展開 (3・4/10)

学習活動	教師の指導・支援 (はT1、T2 共通) 留意点	
	T1	T2
<p>【本時 3/10】</p> <p>1 前時の活動を振り返り、本時のめあてをつかむ。</p> <p>2 身近にある物(発砲トレー)を活用し、傘袋がもっとよく飛ぶような工夫をする。</p>	<p>ワークシートの内容を紹介し、これまでの活動を振り返らせながら本時のめあてにつなぐ。</p> <p>みつけよう、もっとよくとばす くふう!</p> <p>「よく飛ぶ」ということをイメージさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遠くまで飛ぶ・すうっと飛ぶ等 <p>飛距離の目安になる物(コーンや線)を用意しておく。</p> <p>安全に活動するための約束を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・傘袋の先端に危険な物を付けないこと、先端をとがらせないこと。 ・製作の場所と試しに飛ばす場所の区別。 ・試しに飛ばす時、前方の至近距離に友達がいたら声をかけて注意を促すこと。 <p>一緒に遊びながら児童の思いやアイデアを理解し、実現できるように指導・支援する。</p>	
<p>【本時 4/10】</p> <p>3 見つけた工夫を出し合い、友達の作品やアイデアを参考にしながら工夫をして遊ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「羽をつけたらよく飛んだよ。」 ・「わたしも くんみたいな羽をつけてみよう。」 	<p>「どんな工夫ができたかな。」【気付きを広げる(共有させる)】</p> <p>「くらべよう」のカードを提示し、アイデアを発表させたり、友達の作品と自分の作品を見比べさせたりして、工夫や気付きを共有させる。</p> <p>「くらべよう」のカードを提示し、児童の作品と教師の作品を飛ばして見せ、工夫の視点を持たせる。</p>	<p>児童の発表を工夫の観点ごとに整理しながら黒板に掲示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・羽 ・飛ばし方 ・おもりを付ける等

<p>・「くんのほうがよくとぶぞ、なぜだろう…」</p>	<p>「同じように工夫しているのに、なぜかな…。」【気づきを深める】</p>	
<p>4 教師の飛ばし比べを見て、気付いたことを基に、傘袋がさらによく飛ぶような工夫をする。</p> <p>・「ちゃんのように工夫したらよくとぶようになってきた！」</p> <p>・「今度は、おもりもつけてみよう。」</p> <p>・「もうすこし上を向けて投げよう。」</p> <p>・「もっと力一杯(速く)投げよう」</p> <p>・「羽が、右と左、同じ(大きさ、形)になってるかな…」</p> <p>・「羽をもっと後ろに付けよう。」</p> <p>・「あんなに、遠くまで飛んだぞ！」</p>	<p>みつげよう、もっと も～っと よくとばす くふう！</p> <p>主に1～4班を評価・指導・支援する。</p> <p>一緒に遊びながら児童の思いや気づきを見取り、工夫につなぐ指導・支援をする。</p> <p>よく飛ぶ友達の作品と、自分の作品を比べさせ、工夫の共通点や違う所を考えさせる。</p>	<p>主に5～8班を評価・指導・支援する。</p> <p>T1の指導・支援の様子や児童の活動の進み具合を見て、指導・支援の必要な場や児童にかかわる。</p>
<p>4 本時の活動を振り返り、見つけた工夫を発表し合う。</p>	<p>「どんな工夫ができたか話しあってみよう。」【気づきをまとめる】</p> <p>活動の初めと比べ、いろいろな工夫を見つけることができたことを称賛する。</p> <p>工夫することで、遠くまで飛ぶようになり、楽しく活動できていたことを伝える。</p>	<p>【評価基準と教師の支援】</p> <p>A：結果を予想し、工夫しながら遊ぶことができる。</p> <p>工夫のねらいやよく飛ぶようになった理由を言わせる。</p> <p>B：いろいろな方法を試しながら作ったり、遊んだりすることができる。</p> <p>よく飛ぶ友達の作品と自分の作品を比べさせ、さらに工夫を見つけさせる。</p> <p>C：いろいろな方法を試しながら作ったり、遊んだりすることができない。</p> <p>児童の思いを聞き取ったり、友達の作品を参考にさせたりしながら作業を手伝う。</p> <p>工夫の観点を提案したり、実際に作って見せたりする。</p> <p>児童が見付けた工夫を、観点ごと(羽・飛ばし方等)に整理しながら板書する。</p>

7 評価規準と基準ごとの見取りの視点

評価規準 身近にある物を使って、傘袋がよく飛ぶような工夫をしながら遊んでいる。(活動や体験についての思考・表現)		
基準 A	基準 B	基準 C
<p>見取りの視点</p> <p>工夫について、結果の予想を言っている。 試した結果について理由を言っている。 1つの工夫の観点について、段階的に変えながら作ったり、飛ばしたりしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 羽の数や付ける位置、形等。 投げる速さや角度。 持つ位置。 	<p>見取りの視点</p> <p>自分で工夫の観点(羽・おもり・飛ばし方)を決め、作ったり飛ばしたりしている。 工夫の観点を組み合わせて作ったり飛ばしたりしている。 友達のよく飛ぶ作品と自分の作品を比べながら作ったり飛ばしたりしている。 どこまで飛んだか、どのように飛んだかをよく見ている。</p>	<p>見取りの視点</p> <p>友達の様子を見ても、作ったり、遊んだりしていない。 材料を手にとったまま、黙って下を向いている。</p>